

第555回生存圏シンポジウム
生存圏フォーラム特別講演会

11月1日(土) 14時00分～

海洋圏バイオマスの 恵みとヘルスケア

【場所】 京都大学法経済学部本館1階 第五教室 (zoomのハイブリット開催)

【生存圏フォーラム会長挨拶】

14:00～14:10 片山 健至 (香川大学・名誉教授)

【生存圏研究所の紹介】

14:10～14:20 伊福 伸介 (京都大学生存圏研究所・教授)

【講演】

14:20～14:55 「カニ殻由来新素材「キチンナノファイバー」の肌に対する効果効用」
伊福 伸介 (京都大学生存圏研究所・教授)

14:55～15:30 「自然素材キトサンで目指す病気予防へのアプローチ」
安楽 誠 (崇城大学薬学部・教授)

15:30～16:05
「ナノファイバー化技術を用いた未利用資源の農業分野での利活用」
上中 弘典 (鳥取大学農学部・教授)

【閉会の辞】 16:05

【申し込み方法】

QRコードあるいは下記のリンクより
お申込みください。10/24まで。



<https://www.rish.kyoto-u.ac.jp/events/symposium-555/>

参加費無料



【お問い合わせ】 forum@rish.kyoto-u.ac.jp (京都大学生存圏研究所フォーラム事務局)

【主催】 京都大学生存圏研究所

第555回生存圏シンポジウム

生存圏フォーラム特別講演会



海洋圏バイオマスの 恵みとヘルスケア

14:20~14:55

「カニ殻由来新素材「キチンナノファイバー」
の肌に対する効果効用」

伊福 伸介（京都大学生存圏研究所・教授）

カニ殻にはキチンと呼ばれる多糖類が含まれています。キチンを粉砕して細かくしたナノファイバーは様々なヘルスケア効果があることがわかってきました。創傷治癒、皮膚炎の緩和、育毛・発毛効果や製品化の事例を紹介します。



14:55~15:30

「自然素材キトサンで目指す病気予防への
アプローチ」

安楽 誠（崇城大学薬学部・教授）

エビやカニの殻から作られる「キトサン」は、体にやさしい天然素材として注目されています。今回は、病気予防の観点から、キトサンの基本的な働きに加え、近年注目されている“ナノファイバー”や“誘導体”など、より使いやすく改良された新しいキトサンの活用例についてもご紹介します。

15:30~16:05

「ナノファイバー化技術を用いた未利用資源の農業分野での利活用」

上中 弘典（鳥取大学農学部・教授）

農業分野における未利用資源の有効活用は、環境負荷の低減と持続可能な農業の実現に繋がります。天然の多糖であるキチンをナノファイバー化することで、作物の増収に繋がるキチン由来の機能を高められることがわかりました。本講演では、ナノファイバー化技術をカニ殻やきのこの栽培残渣といったキチンを含む未利用資源に直接用いることで、農業分野で利用できる新しい素材を生み出す取り組みについて紹介します。



【お問い合わせ】 forum@rish.kyoro-u.ac.jp（京都大学生存圏研究所フォーラム事務局）

【主催】 京都大学生存圏研究所